

サンディエゴ日本人教会トピックス【2018年1月】

年が明けてはや一ヶ月が過ぎました。日本もアメリカも厳しい寒さに見舞われていますが、皆さん、いかがお過ごしでしょうか。ここサンディエゴでは、皆さんに申し訳ないような好天気恵まれ、ここ数日はまるで初夏のような暖かい日が続いています。

今年はアメリカでもインフルエンザが流行し、サンディエゴでも多くの死者が出ているとニュースは伝えています。教会でも多くの方が礼拝や集会を休まれていましたが、徐々に癒された方々が集会に戻って来れるようになりました。そのような中で、今も病床に伏している方達が一日も早く癒されて、お元気になりますようにお祈りしています。皆さんの上に神様の豊かな祝福をお祈りしています。

今月のトピックスは次のものを掲載いたします。

1. 新年日英合同礼拝
2. サンディエゴ教会のセキュリティー・チーム
3. 新年聖会での恵みの証

1. 新年日英合同礼拝

1月7日（日）サンディエゴ教会の今年初の礼拝は日英合同でした。午前10時より会堂の入り口にはグリーターが満面の笑みをもって、「明けましておめでとうございます」と日本語と英語で来会者を迎え入れてくださいました。礼拝堂はいっぱいの人となり、日英両部共に新年を共に歩んで行きましょうと賑やかに挨拶が交わされました。賛美あふれる中、まず子供達へのメッセージがなされました。

今年は本多一米牧師の日英両語でのメッセージを頂き、「キリストと共に育つ」

「Grow in Christ!」(マタイの福音書28章18～20節)という題でした。あなた方は2018年、何を望みますかとの問いに、平安な豊かな年を求めますなどが語られ、私達はクリスチャンとして神様ともっと深い関係を持ちましょう。他の人々にキリストを伝え、キリストを分かち合える広範囲なアウトリーチをしましょうと勧められました。

イエス様と信頼と服従の関係がとても大切で、キリストの愛の中にいることが私達の信仰の成長につながります。このイエス様を主として仰ぎましょう!と、新年にふさわしいメッセージをいただき、一同希望を持って年を始めました。

2. サンディエゴ教会のセキュリティー・チーム

サンディエゴ教会では安全を考慮してセキュリティーシステムが設置され、セキュリティー・チームが結成されました。教会に来られる方達が安心して礼拝を守り、車の被害などに遭わないようにと考えています。礼拝中はボランティアの方々による警備があり、日本語部の礼拝の時は英語部の方のボランティア、英語部の礼拝の時は日本語部の方のボランティアがパトロールに当たってくださっています。

また建物の入り口にはセキュリティーカメラを設置し安全を図りました。礼拝中は、ドアの入り口は、一箇所オープンしてあり、その他のドアはクローズして出入りできません。必要な出入口一箇所からは自由に出入りできます。

最近の全米で起きているニュース報道に対応し、万全な体制を組んで会衆一同が安心して礼拝を守れるように願っています。ボランティアの皆さんの尊いおはたらきに深く感謝いたします。

3. 新年聖会での恵みの証： ラッドとし子

北米ホーリネス教団、南加諸教会合同、オレンジ郡教会でもたれた2018年の新年聖会へ行ってまいりました。一ヶ月も風邪でこもっていましたが、諦めていましたが、日が近づくつれて癒され、友人の暖かいご愛のライドにより、出席できましてとても感謝しています。寒い日々が続いていたのですが、当日は晴天に恵まれ暖かく、素晴らしい一日を頂きました。

講師の錦織学先生は以前サンディエゴに住んでおられましたので、私共は久しぶりにお会いしとても懐かしく、お忙しい中をニュージャージーよりお出でいただき感謝でした。主題は「プライドー勝ち得て余りある生涯」です。この主題は、私達の教団の夏期修養会の主題でもあり教団は一つのテーマでこの一年をと指導してくださっています。

錦織先生の3回のメッセージの題は第一聖会「あなたは何者?」、第二聖会は「あなたには何がある」、第三聖会は「そんなわけって、どんなわけ」というユニークな問いかけに、私はとても興味深く拝聴しました。

第一聖会：「あなたは何者？」 マタイ20章1節～16節

「天国は、ある家の主人が、自分のぶどう園に労働者を雇うために、夜が明けると同時に、出かけて行くようなものである。彼は労働者たちと、一日一デナリの約束をして、彼らをぶどう園に送った。それから九時ごろに出て行って、他の人々が市場で何もせずに立っているのを見た。そして、その人たちに言った、『あなたがたも、ぶどう園に行きなさい。相当な賃銀を払うから』。そこで、彼らは出かけて行った。主人はまた、十二時ごろと三時ごろとに出て行って、同じようにした。五時ごろまた出て行くと、まだ立っている人々を見たので、彼らに言った、『なぜ、何もしないで、一日中ここに立っていたのか』。彼らが『だれもわたしたちを雇ってくれませんから』と答えたので、その人々に言った、『あなたがたも、ぶどう園に行きなさい』。さて、夕方になって、ぶどう園の主人は管理人に言った、『労働者たちを呼びなさい。そして、最後にきた人々からはじめて順々に最初にきた人々にわたるように、賃銀を払ってやりなさい』。そこで、五時ごろに雇われた人々がきて、それぞれ一デナリずつもらった。ところが、最初の人々がきて、もっと多くもらえるだろうと思っていたのに、彼らも一デナリずつもらったただけであった。もらったとき、家の主人にむかって不平をもらして 言った、『この最後の者たちは一時間しか働かなかったのに、あな

たは一日じゅう、労苦と暑さを辛抱したわたしたちと同じ扱いをなさいました』。そこで彼はそのひとりに答えて言った、『友よ、わたしはあなたに対して不正をしてはいない。あなたはわたしと一デナリの約束をしたではないか。自分の賃銀をもらって行きなさい。わたしは、この最後の者にもあなたと同様に払ってやりたいのだ。自分の物を自分がしたいようにするのは、当りまえではないか。それともわたしが気前よくしているので、ねたましく思うのか』。このように、あとの者は先になり、先の者はあとになるであろう。

先生はみなさんに「私はこんなに頑張っているのに」と思ったことはありませんか？と問われました。私は日々の生活で、そんな思いはひょいと出てくるかも知れない、一生懸命やればやるほどそんなお思いが湧いて来るなと思いました。しかし、神様は公平なお方なので、私達の考えを遥かに超えたところで、私達にいつでも最善をなして下さることを知っています。

傲慢な心、それは罪です。そして、その心は神様を悲しませます。神様があなたを愛されたのは、あなたのがんばりではなく、あなたが立派だからでもなく、神様の愛が無条件の愛だからだということを、再び確認させられ、私はこれは神の憐れみなのだと思いました。そして、私自身が傲慢になりかねない心を探られました。

「あなたは何者なのですか？」の問いに、主は「あなたはわたしの宝だよ。命をかけてあなたを愛しているのだよ」と、尊い神様の愛のメッセージに喜びを感じ感謝しました。

第二聖会： 「あなたには何がある」使徒行伝3章1節～16節

「さて、ペテロとヨハネとが、午後三時の祈のときに宮に上ろうとしていると、生れながら足のきかない男が、かかえられてきた。この男は、宮もうでに来る人々に施しをこうため、毎日、「美しの門」と呼ばれる宮の門のところに、置かれていた者である。彼は、ペテロとヨハネとが、宮にはいって行こうとしているのを見て、施しをこうた。ペテロとヨハネとは彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。彼は何かもらえるのだろうと期待して、ふたりに注目していると、ペテロが言った、「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」。こう言って彼の右手を取って起してやると、足と、くるぶしとが、立ちどころに強くなって、踊りあがって立ち、歩き出した。そして、歩き回ったり踊ったりして神をさんびしながら、彼らと共に宮にはいって行っ

た。民衆はみな、彼が歩き回り、また神をさんびしているのを見、これが宮の「美しい門」のそばにすわって、施しをこうしていた者であると知り、彼の身に起ったことについて、驚き怪しんだ。彼がなおもペテロとヨハネとにつきまとっているとき、人々は皆ひどく驚いて、「ソロモンの廊」と呼ばれる柱廊にいた彼らのところに駆け集まってきた。ペテロはこれを見て、人々にむかって言った、「イスラエルの人たちよ、なぜこの事を不思議に思うのか。また、わたしたちが自分の力や信心で、あの人を歩かせたかのように、なぜわたしたちを見つめているのか。アブラハム、イサク、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神は、その僕イエスに栄光を賜ったのであるが、あなたがたは、このイエスを引き渡し、ピラトがゆるすことに決めていたのに、それを彼の面前で拒んだ。あなたがたは、この聖なる正しいかたを拒んで、人殺しの男をゆるすように要求し、いのちの君を殺してしまった。しかし、神はこのイエスを死人の中から、よみがえらせた。わたしたちは、その事の証人である。そして、イエスの名が、それを信じる信仰のゆえに、あなたがたのいま見て知っているこの人を、強くしたのであり、イエスによる信仰が、彼をあなたがた一同の前で、このとおりの完全にいやしたのである。」

ペテロは「金銭は私にはない。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」と言いました。

この個所の癒しの中で、信心、信じること、経験などは、自分に焦点が当たっていて、自分から出たものです。しかし、信仰とは自分に焦点があるではありません。神に焦点が当たっているのです。彼らの行為ではなく、イエスによる信仰が完全に足なえの人を癒されたのです。

私は、イエス様に焦点があり、自分の力ではないこと、根本的にその違いをはっきりと示され、自分の熱心さや努力ではなく、イエス様に従い委ねて行くということの大切さに再び目が開かれた思いでした。人々はつい目に見えるものに焦点を合わせがちであることの間違いを学びました。

第三聖会： 「そんなわけって、どんなわけ」 ローマ12章1節～12節

「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に

喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。わたしは、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりびとりに言う。思うべき限度を越えて思いあがることなく、むしろ、神が各自に分け与えられた信仰の量りにしたがって、慎み深く思うべきである。なぜなら、一つのからだにたくさんの肢体があるが、それらの肢体がみな同じ働きをしてはいないように、わたしたちも数は多いが、キリストにあって一つのからだであり、また各自は互に肢体だからである。このように、わたしたちは与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っているので、もし、それが預言であれば、信仰の程度に応じて預言をし、奉仕であれば奉仕をし、また教える者であれば教え、勧めをする者であれば勧め、寄附する者は惜しみなく寄附し、指導する者は熱心に指導し、慈善をする者は快く慈善をすべきである。愛には偽りがあってはならない。悪は憎み退け、善には親しみ結び、兄弟の愛をもって互にいつくしみ、進んで互に尊敬し合いなさい。熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え、望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい。」

錦織先生は、互いに愛し合うこと、それが私達の献身です。私達は互いに愛し合う時に神様を見ることが出来るのです。自分の力で神様に救われようとしていませんか。イエス様は十字架上で苦しまれた、それは、私達が返せないほどの借金を、死をもって返してくださったと言う事で、イエスの死と関わることなのです。あなた方も自分自身を捧げて主を愛し、あなたの兄弟を愛しなさい。神様の前に出る時、きよい心で、み前に出なさい。福音は伝える者の土台です。

そして、先生は、あなたがたも聖会へ来て、「神様ってなんて素晴らしいお方でしょう」と言い合って帰ってください。聖会へ来て、何先生が良かったとかではなく、あなたがイエス様から何を頂いた大切なのだと語られました。「そんなわけって、こんなわけだったのか」と大変豊かな恵に満たされ 学ぶことの多い集会でした。

新年にあたり自分の内側を見つめることが出来きたお恵みを心に抱きながら、車の中で自分に与えられた恵をシェアしながら、暖かい心になってサンディエゴへ帰ってまいりました。ハレルヤ！

ラッドとし子